

新興国の家計向け信託商品がもたらす金融包摂の研究

成蹊大学経済学部教授 永 野 護

目 次

- | | |
|----------|----------|
| 1 分析の目的 | 4 実証分析手順 |
| 2 関連先行研究 | 5 実証分析結果 |
| 3 仮説 | 6 考察と結論 |

要旨

本研究はマレーシアの家計を標本として、金融信託商品の存在が家計の金融包摂を促してきたのかについて実証分析を行った。2022年にマレーシア国内において実施した家計アンケート調査の結果得られた結論は次の通りである。第一に、標本の年収下位25%の家計を検証すると、イスラム銀行に口座を開設している家計は、普通銀行に口座を開設する家計に比べ、資産蓄積の進行度がより大きい。第二にイスラム銀行に口座を開設する家計は、銀行の地理的店舗分布の影響を受けない。第三にイスラム銀行で信託商品（ムドラバ）を利用する家計は、その他の家計に比べて、統計的に有意に金融資産蓄積がより大きい。

1 分析の目的

多くの先行研究は、家計の銀行口座開設を後押しする政策措置が、これらの家計の資産蓄積を促す効果があることを実証的に支持している。特に近年の研究では、米国をはじめとする主要先進国やインドなどの新興国・途上国において、1990年代に銀行店舗規制の自由化が進行したことが、家計の金融包摂に貢献したことを指摘している。例えば先進国では、1994年の州際規制撤廃の後の米国では、他州に本店を構える銀行が様々な州へ相次いで新規参入したことにより、それまで銀行口

座を持たない家計のうち、特にマイノリティ集団と定義される家計の口座開設率が上昇したことがよく知られている。

本研究の関連先行研究は、ほぼ全てが、家計部門の金融包摂は、家計の富の蓄積にプラスの貢献をもたらすと結論付けている。数多くの国々の中央政府が、家計部門の金融包摂のための、政策措置を施すのはこのためである。例えば、Célerier and Matray (2019) や Keys et al. (2017) は、米国の個票データを用い、銀行店舗の越境進出が家計の住宅モーゲージ契約増と住宅保有率の上昇へ貢献したと結論付けている。本研究は、これらの先行研究を発展させ、新興国における家計の金融

サービスへのアクセス、特に宗教上の理由によりイスラム銀行に口座を持つ家計が、信託預金の利用頻度を高めることで、金融資産蓄積の進行に貢献しているという実証的証拠を示す。

具体的には、上記の先行研究をもとに、本研究は、イスラム銀行が金融サービスを提供するマレーシアにおいて、普通銀行とイスラム銀行の家計の金融包摂効果の違いを検証し、特に後者の銀行における信託商品が家計部門の富の蓄積に貢献していることを実証的に示している。マレーシアの家計を、所得階級別にみると、イスラム銀行に口座を持つ家計は、特に低所得者層において、口座開設率が高い。このため、本研究では、こうした家計は、数々の金融サービスを銀行から口座を通じて受ける機会が増えるため、金融資産蓄積の進捗を後押ししていると結論付けている。

本研究の第二の論点は銀行店舗のデリバリチャネルの問題に関する点である。Célerier and Matray (2019) や Keys et al. (2017) の研究に象徴されるように、かつては、銀行の地理的分布が家計の金融包摂において重要な要因であった。ところが時代を経て、現代社会では、銀行デリバリチャネルのデジタル化の進行とともに、オンライン・チャネル等のチャネルが、実物店舗を代替しようとしている。マレーシアは、マレー系マレーシア人 (69.4%、2022年)、中国系マレーシア人 (23.1%、同)、インド系マレーシア人 (7.0%、同)、その他のマレーシア人など多様な人種から構成される。金融サービスを利用する上で、利便性が高い銀行の地理的店舗分布を重視する預金者もいれば、宗教上の理由を重視する預金者もいる。本研究では、イスラム銀行の口座を開設する利用者が、銀行店舗の地理的分布よりも、宗教上の理由を重視するがゆえに、口座開設率が高まっている実証的証拠を提示している。

本研究は、第三の仮説として、イスラム銀行における信託商品が、家計の金融資産蓄積

を後押しする効果をもたらしてきたことについての、実証的なエビデンスを示している。普通銀行の普通預金や定期預金の場合、その原資は商業銀行の利潤最大化のための投融資に利用される。他方、信託商品の場合はこの限りではない。例えばイスラム銀行の場合は、イスラム教義（シャリア）に適う事業を行うビジネスやインフラ整備にのみ投融資される。ここでは、この投融資が、銀行自身の利潤最大化のみならず、イスラム社会全般の公共的利益への貢献が目的とされる。本研究は、金融仲介機関が公共性を高めるための金融サービスである信託商品を提供し、この貢献のために家計が信託商品に預け入れることが、資産蓄積を促している実証的証拠を提示している。

次節では、まず関連先行研究の概要について説明する。ここにおいて、本研究が、いかなる先行研究をベースとして議論を発展させているのかを説明する。第3節では、第2節での先行研究をもとに本研究の仮説を提示する。第4節では分析の手順、理論的枠組みにと実証モデルを説明する。ここでは、2022年8月から11月にかけてマレーシア国内で実施したアンケート調査設計の考え方と併せて、研究の戦略を紹介する。第5節では実証結果を報告し、第6節ではこの実証結果と仮説に照らし合わせた上で、本研究の考察と結論を提示する。

2 関連先行研究

家計の金融包摂と富の蓄積の関係に関する先行研究は枚挙に暇がない。こうした金融包摂の研究は、概ね新興国や途上国の標本を用いて、貧困削減の観点からの実証分析結果が報告されてきた。Prina (2015) はネパールの家計を標本に用いた分析により、家計の銀行サービスへのアクセスを高めることは、これらの家計の収入と支出のバランスや資産負債バランスの改善につながるとの実証結果を

報告している。彼女はこの研究においてまず、ある商業銀行の口座保有者を無作為抽出し、銀行取引手数料を無料化するサービスをこれらの家計に提供している。続いて、これらの手数料無料化サービスを受けた口座保有者とその他の口座保有者を比較し、金融収支の改善や負債比率の低下が、統計的に有意により多く、前者の口座保有者にもたらされている結果を報告している。

Schaner (2018) は、ケニアの商業銀行に口座を開設している口座保有者を無作為に抽出し、これらの口座保有者の預金に追加的な受取利息を提供し、預金に追加的な受取利息を追加しない口座保有者との、その後の経済活動についての、比較実験を行っている。この実験により、彼は預金利息を追加的に受け取る家計は、そうではない家計に比べ、その後の貯蓄比率がより高まるだけでなく、口座開設者に占める起業率がより高まるなど、利息収入面以外での経済活動も、統計的に有意に異なるとの結果を報告している。それゆえ彼の研究では、これらの実証結果を踏まえ、家計の銀行への預金行動に対して、長期的なインセンティブを与える政策は、貯蓄率を高めるだけでなく、経済活動まで活発化させるという政策的含意を論文において示している。

Dupas and Robinson (2013) も、ケニアにおいて実施したフィールド実験結果をもとに、家計の貯蓄率が上昇するメカニズムを報告している。彼らの研究は、将来の家族の健康に不安を持つ家計は、予備的動機から、そうではない家計に比べより高い貯蓄性向を持つと結論付けている。他方、Dupas et al. (2018) は、ウガンダ、マラウィ、チリの家計を標本とするデータをもとに、これらの国々では、家計の金融包摂は、政府が家計に貯蓄性向を高めるためのインセンティブを政策的に与えたとしても、それは決して高まることはない、と主張している。彼らの研究は、上記の3カ国で、新規口座開設に政府が補助

金を提供する政策措置が行われた時期の家計データを標本としている。この標本データを分析した結果、口座開設に補助金を提供したとしても、それが統計的に有意に家計の口座開設率を高めるわけではなく、また補助金政策を与えていない時期の家計に比べて、貯蓄残高も統計的に有意に増加していないと報告している。それゆえ、彼は、家計の金融包摂を促す政策措置が、貧困削減に直結するわけではないと結論付けている。

関連先行研究には、商業銀行の店舗展開と家計の金融包摂についての関係について、これまで研究成果を報告している研究もある。Célerier and Matray (2019) は、1994年の米国リーグル＝ニール法による州際規制撤廃後、他州から新規参入した銀行の店舗増加が、家計の口座開設率の上昇と資産蓄積の増加をもたらしたと結論付けている。この研究は、銀行に口座を持つ家計は、口座を持たない家計に比べ、金利収入を生み出す金融資産のみならず、自動車等の耐久消費財の保有数量も、統計的に有意に大きいと結論付けている。この研究とは逆のパターンの研究が Nguyen (2019) の研究であり、この研究は2008年リーマン危機による銀行店舗閉鎖がもたらす金融包摂への影響について分析を行っている。Nguyen (2019) の研究では、金融危機による多数の銀行店舗の閉鎖が、特に地場の中小企業の金融逸脱とも称すべき状況を誘発したことで、地域全体の所得水準を下押ししたとの結論を報告している。

Goodstein and Rhine (2017) は米国家計と銀行店舗、ならびに非銀行金融業者の店舗の地理的分布のデータを用い、家計と金融サービス業者の店舗チャネルの地理的距離と銀行口座開設率との関係を実証的に分析している。彼らはこの研究において、次の2つの結論を導出している。第一に、家計と商業銀行の店舗との地理的距離は、家計の口座開設に統計的に有意に負の影響を持つ。すなわち、距離が近いほど、家計の銀行口座開設の

確率は高い。第二に、他方、保険会社や証券会社などの非銀行金融サービス業者の場合は、家計と店舗チャネルの地理的距離は、サービス享受の経験の有無に影響をもたらさない。Bruhn and Love (2014) の研究は、メキシコの個人の金融包摂と労働市場参加との関係を分析している。この研究は、メキシコにおいて、銀行店舗が多数分布する地域と、銀行店舗がそれまで展開されていない地域の労働者では、労働市場参加のパターンが異なるか否かを分析している。この標本を用いた実証分析の結果、この研究は、銀行店舗が数多く展開され、銀行サービスへのアクセスの頻度が高い労働者ほど、労働市場での求職活動を活発に行っていると結論付けている。特に低所得者ほど、銀行店舗が展開する地域とそうではない地域では、個人の労働市場参加の有無に大きな違いがあるため、Bruhn and Love (2014) は銀行店舗チャネル展開を後押しする施策が、貧困削減に貢献するとの政策提言を述べている。

Célerier and Matray (2019) の研究に象徴されるように、銀行店舗網の敷設は地域の家計の富の蓄積に貢献する。その理由は、それまで住宅ローンや自動車ローンなどの、ローンを利用して債務を増やすことでの固定資産増が、金融サービスへのアクセス度が高まることで可能となるためである。この点について、先行研究は、家計の金融包摂の進捗と債務管理の関係についても分析の焦点を当てている。Agarwal et al. (2017) の研究は、もともとインド地方政府が設けた、銀行口座開設者に補助金インセンティブを与える金融包摂プログラムが、その後の家計の金融行動にどのような影響を与えているかについての実証分析を行った研究である。彼らの結論は、こうした補助金により銀行口座を開設した家計は、銀行口座を開設しない家計よりも、ローン商品の契約を締結する確率がより高いと結論付けている。

Brown et al. (2018) は1990年代の米国金

融制度改革が、米国の一部の家計部門にメリットをもたらしたことを個票調査の結果をもとに報告している。Brown et al. (2018) は、米国内のネイティブ米国家計へ個票調査を実施し、この調査結果をもとに、まず店舗規制自由化による銀行店舗網の拡大が、これらのネイティブ米国家計の口座開設率を高めていることの、実証的証拠を示している。加えて、この論文の貢献は、これらの銀行口座を開設した家計ほど、破産申請を申し立てる確率が低下していることを実証的に明らかにした点である。この研究ではその理由を、個票調査の実証分析結果をもとに、家計向け短期融資の利用頻度が高まることで、金融困難時の資金繰りが賄われるためであると結論付けている。その後、Melzer (2018) の研究においても、銀行店舗網の敷設地域拡大が、金融困難に陥る家計の比率を低下させている実証的根拠が示されている。Melzer (2018) ではこの理由として、銀行口座の開設した家計は、銀行口座を開設していない家計に比べて、Pay-day-loan などの家計の短期資金繰りのためのローンといった金融サービスへアクセスすることが容易となったためであると説明している。

しかしながら、先行研究の中には、家計の金融包摂が負債の増大をもたらすという点で、家計の経済活動にマイナスの影響をもたらしているとする研究もある。Carrell and Zinman (2014) は、入手可能な、米国空軍所属隊員の勤務評価データから、Pay-day-loan からの借入を行っている隊員は、そうではない隊員に比べて、上官からの勤務評価が低く、また在職期間が短いという実証結果を報告している。Carrell and Zinman (2014) の研究の重要な点は、この空軍隊員の勤務評価の違いは、住宅モーゲージ・ローンの借入の有無の点では、違いが存在しなかった点である。すなわち、家計の金融包摂は、住宅という実物資産の保有のための債務増加は、勤務パフォーマンスに影響をもたらさないが、

月々の資金繰りのための短期借入は、負の影響をもたらすという点が、この研究の重要な結論である。

上記のように、家計の金融包摂と富の蓄積に関する先行研究の多くは、この両者が正の関係にあるとの結論を導出している。そして、多くの研究が、銀行店舗網の地域的拡大や政府の口座開設インセンティブ・プログラムが、家計の金融包摂にプラスの効果をもたらすとの実証結果を提示している。さらに、複数の先行研究は、家計の金融包摂は、家計が債務のマネジメントを通じて、金融資産のみならず実物資産という富の蓄積をも促しているという実証結果を報告している。ただし、先行研究の中には、家計の金融包摂は、個人の短期資金繰りの利便性を高めたことで、勤務上のパフォーマンスが悪化や債務比率の上昇を招いている、との結論を報告している研究もある。

3 仮 説

本研究では、米国において、1994年の銀行店舗規制自由化後の、店舗チャネル拡大が、一部の家計の金融包摂と富の貢献した経緯同様、マレーシアでは、イスラム銀行の存在が、イスラム教を信仰する家計の金融包摂を促したことを仮説としている。そしてこの金融包摂の過程において、イスラム銀行が提供する信託商品が、家計の富の蓄積に貢献してきたことを検証する。この仮説検証において、具体的には次の4つの仮説を、次節で示す実証分析の手順をもとに検証する。

本研究の第一の仮説は、イスラム銀行の存在が、家計の口座開設率にプラスの影響をもたらしてきたことである。Célerier and Matray (2019) や Brown et al. (2018) の研究では、銀行店舗網の拡大が、家計の口座開設率に正の影響をもたらしたことを実証結果をもとに報告している。これらの先行研究の重要な点は、それまで銀行に口座を開設して

いなかった家計が、銀行店舗網の拡大により、口座開設を後押しされているという点である。新興国や途上国では、低所得者層は、家計の銀行口座開設率が低いため、Dupas et al. (2018) や Agarwal et al. (2017) の研究に象徴されるように、政府が補助金によりこれを促す国が散見される。こうした状況を踏まえ、本研究は、イスラム銀行の存在が、普通銀行のみが存在する場合に比べ、家計の金融包摂を促進したことを第一の仮説とする。その理由は、仮に店舗チャネルが地理的に広い範囲で敷設されていなかったとしても、宗教上の理由から、口座開設が後押しされるためである。

H1: イスラム銀行での口座開設が可能な国・地域では、低所得者層において、イスラム銀行での家計の銀行口座開設率は、普通銀行よりも高い。

本研究の第二の仮説は、家計の銀行口座開設が、金融サービスの利用を通じて、資産蓄積に貢献するという仮説である。先行研究は、銀行口座の開設がなぜ家計の富の蓄積に貢献するかという理由について、金融サービスの利用頻度の高まりを指摘している。Agarwal et al. (2017) や Célerier and Matray (2019) の研究は、インドや米国において、銀行口座を開設した家計は、開設していない家計よりも、住宅ローンや自動車ローンなどの金融商品をより高い頻度で利用することで、実物資産を増加させていると結論付けている。また Schaner (2018) のケニアや Bruhn and Love (2014) のメキシコの家計を標本とする研究では、銀行口座を開設した家計は、起業率が高く、労働市場で求職活動を活発化させるという結論を報告している。これらの研究を踏まえ、本研究においても、イスラム銀行に銀行口座を持つ家計は、口座をもたない家計や普通銀行のみに口座を持つ家計よりも、富の蓄積の進行がより進んでいることを第二の仮

説とする。併せて、マレーシアのイスラム銀行の預金では、ムダラバ（信託預金）が、全預金の83%を占めるため、信託商品の存在もこの富の蓄積を促している、ことを第三の仮説とする。

H2: イスラム銀行に銀行口座を持つ家計は、口座をもたない家計や普通銀行のみに口座を持つ家計よりも、富の蓄積の進行が進んでいる。

H3: ムダラバ（信託預金）の金融サービスは、銀行口座を持つ家計の富の蓄積をさらに促している。

Célerier and Matray (2019) の研究は、銀行口座を開設した家計が、住宅や自動車等の実物資産の保有比率が高まることを指摘する。他方、この研究では、これらのローンの利用により増加した債務の管理は、銀行口座を開設していない家計に比べ、金融困難に陥る確率が低いと結論付けている。また、Prina (2015) や Melzer (2018) の研究も、銀行口座を開設している家計は、短期融資などの利用が容易であることが、金融困難に陥る比率が低い理由であると結論付けている。これらの先行研究を踏まえ、本研究は、イスラム銀行に口座を開設する家計は、口座を持たない家計や普通銀行のみに口座を持つ家計よりも、金融困難に陥りにくいことを、第4の仮説とする。

H4: イスラム銀行に口座を開設する家計は、口座を開設していない家計や普通銀行のみに口座を開設する家計よりも金融困難に陥りにくい。

4 実証分析手順

前節で示した4つの仮説を検証するため、本研究は、次の実証モデル(A)および(B)を処置

効果モデルにより同時推計する。実証モデル(A)の被説明変数 (*bank account*) は、銀行口座を開設している家計 = 1、開設していない家計 = 0 とする。実際の推計では、次の3種類の標本による推計を行う。一つ目の標本は(1)普通銀行に銀行口座を開設する家計と銀行口座を持たない家計から構成される標本、2つ目が(2)イスラム銀行に口座を開設する家計と口座を持たない家計、3つ目が(3)イスラム銀行に口座を開設する家計と普通銀行のみに口座を開設する家計の個票データである。3つ目の標本を用いる分析に限り、イスラム銀行に口座を開設している家計 = 1、普通銀行のみに口座を開設している家計 = 0 とする。

実証モデル(A)は、説明変数として、直近の年収の自然対数値 (*income*、単位：マレーシアリング)、信仰宗教 (*religion 1-4*)、世帯主の人種 (*ethnic 1-2*)、居住地域 (*area 1-4*)、最終学歴 (*education 1-4*)、職業 (*occupation 1-7*)、婚姻の有無 (*marriage*)、同居家族数の自然対数値 (*family*)、世帯主年齢の自然対数値 (*age*)、回答者が居住する州の銀行店舗数の人口一万人当たりの比率 (*branch*)、性別 (*sex*) を採用している。信仰宗教 (*religion*) は3種類のダミー変数を採用し、回答家計世帯主の信仰宗教がイスラム教の場合 *religion_1*=1、その他を=0、仏教の場合 *religion_2*=1、その他=0、キリスト教の場合 *religion_3*=1、その他=0、とした。世帯主の人種は2種類のダミー変数を採用し、回答家計世帯主の人種がマレー人の場合 *ethnic_1*=1、その他を=0、中国人の場合 *ethnic_2*=1、その他=0とした。

銀行店舗の地理的分布の代理変数である居住地域は、ジョホール州（南地域）、ケダ州（北地域）、クランタン州（東海岸）、マラッカ州（南地域）、スグリシンビラン州（南地域）、パハン州（東海岸）、ペナン州（北地域）、ペラ州（北地域）、プルリス州（北地域）、サバ州（西海岸）、サラワク州（西海岸）、セラ

ンゴール州 (中央地域)、クアラルンプール連邦直轄領 (中央地域)、その他の14地域に5種類のダミー変数 (*area_1-5*) を採用した。最終学歴 (*education_1-4*) は最終学歴が中学校・小学校、高等学校、大学学部、大学院、の4種類のダミー変数を用いている。職業ダミー (*occupation_1-7*) は、農業、建設業、教育サービス業、製造業、医療サービス業、小

売・卸売業、飲食店業、にそれぞれ7種類のダミー変数を採用した。銀行店舗の地理的分布の代理変数には、マレーシア14州のうち、回答者が居住する州の銀行店舗数の人口一人当たりの比率 (*branch*) の変数を用いている。婚姻の有無 (*marriage*) は、回答者が結婚している場合を = 1、結婚していない場合を = 0 とした。

$$\begin{aligned} bank\ account_i = & \gamma_0 + \gamma_1 income_i + \sum \gamma_m religion^m_i + \sum \gamma_n ethnic^n_i + \sum \gamma_p area^p_i + \sum \gamma_q education^q_i \\ & + \sum \gamma_r occupation^r_i + \gamma_2 branch_i + \gamma_3 marriage_i + \gamma_4 family_i + \gamma_5 age_i + \gamma_6 sex_i \end{aligned} \quad (A)$$

$$\begin{aligned} assets_i = & \phi_0 + \phi_1 bank\ account_i + \phi_2 income_i + \sum \phi_m religion^m_i + \sum \phi_n ethnic^n_i + \sum \phi_p area^p_i \\ & + \sum \phi_q education^q_i + \sum \phi_r occupation^r_i + \phi_3 branch_i + \phi_4 marriage_i + \phi_5 family_i + \phi_6 age_i + \phi_7 sex_i \end{aligned} \quad (B)$$

実証モデル(B)は、被説明変数 (*bank account*) に、家計の金融資産残高 (*assets*) を採用する。説明変数には、実証モデル(A)の被説明変数である銀行口座開設の有無 (*bank account*) を用いる。その他の説明変数は、実証モデル(A)で採用した、直近の年収の自然対数値 (*income*)、信仰宗教 (*religion_1-4*)、世帯主の人種 (*ethnic_1-2*)、居住地域 (*area_1-5*)、最終学歴 (*education_1-4*)、職業 (*occupation_1-7*)、銀行店舗の人口比 (*branch*)、婚姻の有無 (*marriage*)、同居家族数の自然対数値 (*family*)、世帯主年齢の自然対数値 (*age*)、性別 (*sex*) を採用する。

第3節で示した4つの仮説と、本節の実証モデルとの関係は次の通りである。(1)と(2)の標本において、低い所得グループの家計のイスラム銀行での口座開設率が、普通銀行のそ

れよりも、統計的に有意に高ければ、第一の仮説 H1が支持される。次に(1)の標本を用いた推計において、実証モデル(B)の被説明変数 (*bank account*) の係数値が、家計の総資産規模 (*assets*) に対して有意に正である場合、第二の仮説 H2が支持される。

(1)の標本を用いて実証モデル(A)の被説明変数に、信託商品 (ムダラバ) の利用の有無 (利用する = 1、利用しない = 0) を採用するモデルを推計し、この実証モデル(B)での係数値が、有意に正である場合、第三の仮説 H3が支持される。最後に、(3)の標本を用いて実証モデル(B)の被説明変数に、家計の総負債残高の所得比を採用する場合、*bank account* の係数値が、有意に負である場合、第四の仮説 H4が支持される。尚、使用データの記述統計は図表1の通りである。

図表 1 使用データの記述統計

	平均	標準偏差	最小値	最大値	=1	=0
<i>bank account</i>						
<i>standard bank</i>	5,193				4,371	822
<i>islam bank1</i>	2,039				1,217	822
<i>islam standard</i>	6,588				1,217	5,371
<i>income</i>	7,410	9.905	10.237	2.303	12.766	
<i>assets</i>	7,410	5.846	11.116	0.000	13.081	
<i>asset income</i>	7,410	0.211	0.923	-2.914	3.187	
<i>debt</i>	7,410	5.711	5.886	0.000	13.218	
<i>debt income</i>	7,410	5.997	5.759	-3.187	15.931	
<i>prospensity save</i>	7,410	0.312	0.362	0.000	1.000	
<i>deposit savings</i>	7,410	0.339	0.404	0.000	1.000	
<i>equity savings</i>	7,410	0.122	0.244	0.000	1.000	
<i>religion</i>						
<i>religion islam</i>	7,410				2,317	5,093
<i>religion bud</i>	7,410				237	7,173
<i>religion christ</i>	7,410				372	7,038
<i>religion hindu</i>	7,410				37	7,373
<i>ethnic</i>						
<i>ethnic malay</i>	7,410				4,598	2,812
<i>ethnic chinese</i>	7,410				1,356	6,054
<i>area</i>						
<i>area central</i>	7,410				3,765	3,645
<i>area east coast</i>	7,410				654	6,756
<i>area east</i>	7,410				769	6,641
<i>area northern</i>	7,410				964	6,446
<i>area southern</i>	7,410				1,143	6,267
<i>education</i>						
<i>education graduate</i>	7,410				763	6,647
<i>education uni</i>	7,410				3,127	4,283
<i>education high</i>	7,410				2,701	4,709
<i>education element</i>	7,410				592	6,818
<i>occupation</i>						
<i>occupation agri</i>	7,410				309	7,101
<i>occupation const</i>	7,410				2,575	4,835
<i>occupation edu</i>	7,410				798	6,612
<i>occupation manuf</i>	7,410				329	7,081
<i>occupation medical</i>	7,410				188	7,222
<i>occupation retail</i>	7,410				133	7,277
<i>occupation restaurant</i>	7,410				1,016	6,394
<i>marriage</i>					4,926	2,484
<i>branch</i>	7,410	8.414	7.362	17.650	11.199	
<i>family</i>	7,410	1.321	0.470	0.000	1.946	
<i>age</i>	7,410	3.779	0.281	3.045	4.007	
<i>sex</i>	7,410				4,289	3,121

資料：2022年8月1日～11月30日にかけて調査会社 Vodus 社への委託により実施した家計アンケート調査個票データより作成。

5 実証分析結果

図表 2 は実証モデル(A)、(B)の推計結果を示している。図表 2 の実証モデル(1a)と(1b)は、普通銀行に口座を開設する家計と口座を開設していない家計の標本を用いた場合の処置効果モデルによる推計結果である。実証モデル(2a)と(2b)は、イスラム銀行に口座を開

設する家計と口座を開設していない家計の、標本を用いた場合の推計結果である。実証モデル(1a)の推計結果を見ると、回答者の居住地域の銀行店舗数対人口比 (*branch*) の係数値が、正の有意な値を示している。これは、銀行店舗数が多い地域ほど、銀行口座の開設率が高いことを示している。実証モデル(1b)の推計結果を見ると、普通銀行口座の開設の有無 (*standard_bank*) の係数値が、正の有意

な値を示している。これは、普通銀行に口座を開設する家計は、口座を開設しない家計に比べ、金融資産蓄積が進行していることを示唆している。

他方、図表2の実証モデル(2a)と(2b)は、イスラム銀行に口座を開設する家計と口座を開設していない家計の、全標本を用いた場合の推計結果である。実証モデル(2a)の推計結果を見ると、回答者の居住地域の銀行店舗数対人口比 (*branch*) の係数値は、非有意であった。これは、イスラム銀行での口座開設率は、銀行店舗の地理的分布に影響を受けにくいことを意味している。実証モデル(2b)の推計結果を見ると、イスラム銀行口座の開設の有無 (*islamic_bank*) の係数値は、非有意であった。これは、家計の、イスラム銀行での口座開設の有無と、金融資産蓄積の進行が、統計的に有意に関係しないことを意味している。

図表2の実証モデル(3a)と(3b)は、イスラム銀行に口座を開設する家計と普通銀行に口座を開設する家計の、標本を用いた推計結果である。実証モデル(3a)の推計結果を見ると、回答者のうち、イスラム教を信仰する回答者を意味するダミー変数 (*religion_muslim*) の係数値は、正の有意な値を示している。これは、銀行口座開設において、イスラム教を信仰する家計の世帯主が、当然ながらイスラム銀行での口座開設率が、より高いことを示している。

図表3は、所得水準の下位25%を標本とする場合の、実証モデル(A)、(B)の処置効果モデルによる推計結果である。標本はイスラム銀行に口座を開設する家計と、普通銀行に口座を開設する家計の個票データを採用している。実証モデル(A)の被説明変数には、実証モデル(3A)(3B)同様、イスラム銀行 = 1、普通銀行 = 0 とするダミー変数を採用している。実証モデル(4a)の推計結果を見ると、家計の所得水準の対数値 (*income*) が正の有意な値を示している。これは、所得水準が低い

家計グループでは、所得の上昇がイスラム銀行の口座開設を後押しする度合いがより大きいことを示している。併せて、実証モデル(4a)では、世帯主の年齢の対数値 (*age*)、銀行店舗数の人口比 (*branch*) が、負の有意な値を示している。これは、所得水準が低い家計グループでは、よりイスラム銀行での口座開設率が高く、普通銀行の銀行開設は、銀行店舗へのアクセス性が重要であることを意味している。また実証モデル(4b)の推計結果を見ると、イスラム銀行口座の開設 (*islamic or standard*) および家計所得の自然対数値 (*income*) の係数値が、ともに正の有意な値を示している。これは、所得水準が低い世帯の場合、イスラム銀行に口座を開設する家計は、普通銀行に口座を開設する家計に比べ、金融資産蓄積が進行していることを示唆している。そしてそれは、所得水準が上昇するほど、資産蓄積の進行が進捗していることを統計的に示している。

図表3は、所得水準の下位25%を標本とする場合の、実証モデル(A)、(B)の処置効果モデルによる推計結果である。実証モデル(4a)の推計結果を見ると、家計の所得水準の対数値 (*income*) が正の有意な値を示している。これは、所得水準が低い家計グループでは、所得の上昇がイスラム銀行の口座開設を後押しすることを示している。併せて、実証モデル(4a)では、世帯主の年齢の対数値 (*age*) が負の有意な値を示しており、また銀行店舗数の人口比 (*branch*) が非有意である。これは、所得水準が低い家計グループでは、よりイスラム銀行での口座開設率が高く、銀行店舗へのアクセス性は重要ではないことを意味している。

図表3の実証モデル(5a)(5b)は、イスラム銀行に口座を開設する所得下位25%の家計のうち、信託商品(ムダラバ)を利用する家計と、利用しない家計を標本とする場合の、推計結果である。実証モデル(5b)の推計結果を見ると、信託商品(ムダラバ)の利用の有

図表2 推計結果1

Dep. Variable	<i>standard bank</i>	<i>total assets</i>	<i>islamic bank</i>	<i>total assets</i>	<i>islamic or standard</i>	<i>total assets</i>
	Full Sample		Full Sample		Full Sample	
	(1a)	(1b)	(2a)	(2b)	(3a)	(3b)
<i>standard_bank</i>		3.195 *** (4.870)				
<i>islamic bank</i>				-0.420 (-0.310)		
<i>islamic or standard</i>						-0.240 (-0.570)
<i>income</i>	0.001 (0.050)	0.348 *** (4.620)	-0.019 (-0.640)	0.334 *** (3.080)	0.001 (0.050)	0.382 *** (5.580)
<i>religion_muslim</i>	-0.335 * (-1.800)	-1.859 *** (-4.580)	0.088 (1.400)	-1.278 * (-1.780)	0.520 *** (3.890)	-1.563 *** (-4.020)
<i>religion_bud</i>	0.485 * (1.790)	-0.382 (-0.740)	0.471 (1.130)	-0.973 (-0.720)	-0.049 (-0.250)	-0.138 (-0.280)
<i>religion_christ</i>	0.061 (0.310)	-0.156 (-0.420)	0.091 (0.320)	-1.030 (-1.020)	0.016 (0.100)	0.011 (0.030)
<i>area1</i>	-0.056 (0.430)	0.627 * (1.780)	0.042 (0.270)	-0.212 (-0.380)	-0.051 (-0.540)	0.654 ** (2.010)
<i>area2</i>	-0.104 (-0.630)	0.087 (0.210)	0.090 (0.470)	-0.980 (-1.470)	0.225 * (1.900)	0.147 (0.370)
<i>area3</i>	-0.428 ** (-2.490)	-0.719 (-1.420)	-0.492 * (-2.310)	-3.094 *** (-3.860)	-0.035 (-0.220)	-1.244 ** (-2.420)
<i>area4</i>	0.042 (0.290)	0.211 (-0.380)	0.100 (0.570)	-0.389 (-0.630)	-0.012 (-0.110)	0.067 (0.190)
<i>family</i>	-0.009 (-0.100)	-0.101 (-0.380)	0.033 (0.300)	-0.072 (-0.190)	-0.022 (-0.300)	0.055 (0.210)
<i>age</i>	-0.350 * (-1.770)	0.669 (1.540)	-0.271 (-1.270)	0.679 (0.940)	-0.018 (-0.130)	0.667 * (1.590)
<i>bank</i>	0.025 ** (2.130)	0.460 (0.870)	-0.357 (-1.410)	1.910 (0.840)	-0.217 *** (-3.400)	0.626 (1.550)
<i>constant</i>	2.074 ** (2.480)	-2.283 (-1.120)	1.025 (1.140)	0.034 (0.010)	-0.516 *** (-0.890)	0.322 (0.180)
<i>ethnic dummies</i>	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes
<i>education dummies</i>	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes
<i>occupation dummies</i>	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes
<i>marriage dummies</i>	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes
<i>sex dummies</i>	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes
Observations		4,656		1,894		5,202
Wald test of Indep. (rho0=rho1=0): chi2		16.400 ***		5.640 **		15.020 ***

注：***、**、*はそれぞれ1%、5%、10%での有意を示す。

無 (*mudarabah*) および家計所得の自然対数値 (*income*) の係数値が、ともに正の有意な値を示している。これは、所得水準が低い家計の中でも、信託商品 (ムダラバ) を利用する家計は、口座を開設しない家計に比べ、金融資産蓄積が進行していることを示唆している。そしてそれは、所得水準が上昇するほど、資産蓄積の進行が進捗していることを同時に示している。

最後に、図表3 (6a) (6b) は、イスラム銀行に口座を開設する家計と口座を開設していない家計の標本に、(6b)の被説明変数に家計債務の対所得比 (*debt_income*) を採用した場合の推計結果である。実証モデル(6b)の推計結果を見ると、イスラム銀行口座の開設の有無 (*islamic_bank*) の係数値が、負の有意な値を示している。これは、イスラム銀行に口座を開設する家計は、口座を開設しな

図表2 推計結果2

Dep. Variable	islamic or standard	asset income	mudarabah	asset income	islamic bank	debt income
	lowest quantile sample (4a)	sample (4b)	lowest quantile sample (5a)	sample (5b)	full sample (6a)	(6b)
<i>islamic or standard</i>		1.287 *** (17.510)				-0.334 *** (-2.850)
<i>mudarabah</i>				0.419 * (1.760)		
<i>income</i>	0.004 *** (3.130)	0.030 *** (1.230)	0.036 * (1.740)	0.049 ** (2.070)	-0.011 (-0.042)	0.114 (1.200)
<i>religion_muslim</i>	0.120 (0.580)	0.010 * (1.790)	0.332 * (1.820)	0.079 ** (2.370)	0.086 (0.910)	-1.340 * (-1.900)
<i>religion_bud</i>	0.379 (1.020)	0.318 (0.980)	0.339 (0.500)	0.048 (0.120)	0.554 (1.210)	-0.978 (-0.630)
<i>religion_christ</i>	0.237 (0.870)	0.069 (0.280)	0.444 (0.860)	0.113 (0.420)	0.089 (0.400)	0.064 (0.330)
<i>area1</i>	0.065 (0.450)	0.083 (0.640)	0.021 (0.080)	-0.014 (-0.240)	0.044 (0.250)	-0.207 (-0.740)
<i>area2</i>	-0.006 (-0.030)	-0.023 (-0.160)	0.101 (0.310)	-0.009 (-0.290)	0.071 (0.470)	-0.847 (-0.260)
<i>area3</i>	-0.526 *** (-2.670)	-0.386 ** (-2.360)	-0.412 (-1.160)	-0.059 (-0.290)	-0.334 * (-1.860)	-1.970 ** (-2.110)
<i>area4</i>	0.110 (0.660)	0.113 (0.770)	0.210 (0.720)	-0.015 (-0.070)	0.166 (0.930)	-0.464 (-0.570)
<i>family</i>	0.032 (0.320)	-0.036 (-0.410)	0.137 (0.800)	-0.014 (-0.180)	0.019 (0.410)	-0.065 (-0.180)
<i>age</i>	-0.338 * (-1.730)	-0.176 (-1.030)	-0.316 (-0.920)	0.052 (0.300)	-0.333 * (-1.740)	0.588 (0.870)
<i>branch</i>	-0.349 ** (-2.371)	-0.874 (-0.574)	-0.747 (-0.647)	-0.790 (-0.978)	-0.404 (-1.550)	0.749 (0.980)
<i>constant</i>	1.331 * (1.600)	0.734 * (1.780)	-0.067 (-0.040)	-0.611 (-0.810)	0.997 (1.540)	0.378 (0.050)
<i>ethnic dummies</i>	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes
<i>education dummies</i>	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes
<i>occupation dummies</i>	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes
<i>marriage dummies</i>	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes
<i>sex dummies</i>	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes
Observations		1,244		194		1,801
Wald test of Indep. (rho0=rho1=0): chi2		165.080 ***		5.960 **		111.450 ***

注：***、**、*はそれぞれ1%、5%、10%での有意を示す。

い家計に比べ、負債の対所得比率が低いことを意味している。

6 考察と結論

本研究において設定した仮説と実証結果を照らし合わせると、次の含意が導かれる。本研究の実証研究では、実証モデル(1a)(1b)において、普通銀行に口座を開設する家計の資産蓄積の進行が、口座を開設しない家計に比べ、より高い店舗であることを統計的に有意に示されている。この結果は、イン

ドの家計の金融行動を分析した Agarwal et al. (2017)、ケニアの家計の金融行動を分析した Schaner (2018)、Dupas and Robinson (2013)、ウガンダ、チリ、マラウイの家計の分析を行った Dupas (2018)、そして米国の先住民族の金融包摂を研究した Célerier and Matray (2019) の先行研究の結果と一致する。すなわち、マレーシアにおいても、普通銀行に口座開設しているか否かは、その後の資産蓄積に影響を与えることが確認されたことになる。

本稿が先行研究とは異なる点は、イスラム

銀行の家計の資産蓄積に対する影響である。実証モデル(2a)(2b)では、イスラム銀行での家計の口座開設が、資産蓄積にプラスに影響しているとの結果は得られていない。他方、標本を所得下位25%に限定した場合には、イスラム銀行の口座開設は、普通銀行に口座を開設するよりも、家計の資産蓄積にプラスの影響をもたらす結果が得られている。さらに、本稿の実証分析結果は、普通銀行店舗の人口一万人当たりの分布(店舗数)が大きいほど、家計の口座開設に正の影響をもたらすことを示している。他方、イスラム銀行での口座開設には、銀行店舗の分布は所得の大小に関わらず影響をもたらしていない一方、宗教信仰が統計的に有意に影響をもたらすとの結果が得られている。この点は、マレーシアでは、所得水準が低いグループの金融包摂に、イスラム銀行の存在が貢献していることを意味しており、またその金融包摂が、低所得家計の資産蓄積にプラスの貢献を果たしていることを示している。この点が、先行研究では、明らかにされていない本稿の新たな学術研究上の貢献である。

本稿の実証分析結果はさらに、イスラム銀行に口座を開設する家計の中でも特に、信託商品(ムダラバ)を利用する家計は、その資産蓄積の度合いが大きいことを実証的に示している。イスラム銀行を利用する家計は、信託商品(ムダラバ)以外にも、ムラバハ(割賦金融取引)、イジャラ(リース金融取引)、ムシャラカ(利益分配型金融取引)など、様々な金融商品の選択可能性がある。この中でも、信託商品(ムダラバ)を選択する家計の資産蓄積の進捗がより顕著であることを確認した点が、本稿の研究上の2つ目の貢献である。

本研究の3つ目の学術的な貢献は、イスラム銀行による金融包摂と家計の債務管理との関係についてである。先行研究では、米国の家計を研究したMelzer(2018)のように、家計部門の金融包摂が、家計の債務超過の可能性を軽減するとの結論を提示する研究もあ

れば、Carrell and Zinman(2014)のように、債務超過を招く確率を高めるという実証結果を提示する研究もある。特にCarrell and Zinman(2014)では、銀行店舗チャネルへのアクセスが改善することで、銀行借入へのアクセスが容易となり、債務超過のみならず、就業の継続や職場でのパフォーマンスに負の影響をもたらすことが確認されている。この点について、本稿では、イスラム銀行に口座を開設する家計は、家計債務の総所得比がより低いことが実証的に明らかにされている。この点は、Melzer(2018)が米国家計の研究で指摘している通り、金融サービスへのアクセスが容易となることで、家計債務管理にプラスの影響がもたらされる状況が、イスラム銀行に口座開設をする家計にももたらされていることを示唆している。

【参考文献】

- Agarwal, Sumit, Shashwat Alok, Pulak Ghosh, Soumya Ghosh, Tomasz Piskorski, and Amit Seru, (2018), *Columbia Business School Research Paper*, No.17-12.
- Brown, James R., J. Anthony Cookson, Rawley Z. Heimer, (2019), "Growing Up Without Finance," *Journal of Financial Economics*, Vol.134, pp.591-661.
- Bruhn, Miriam, and Inessa Love, (2014), "The Real Impact of Improved Access to Finance: Evidence from Mexico," *The Journal of Finance*, Vol.69, pp.1347-1376.
- Célerier, Claire, and Adrien Matray, (2019), "Bank-Branch Supply, Financial Inclusion, and Wealth Accumulation," *Review of Financial Studies*, Vol.32, pp.4767-4809.
- Dupas, Pascaline, Dean Karlan, Jonathan Robinson, and Diego Ubfal, (2018), "Banking the Unbanked? Evidence from Three Countries," *American Economic Journal: Applied Economics*, Vol.10, pp.257-297.

- Dupas, Pascaline, and Jonathan Robinson, (2013), Savings Constraints and Microenterprise Development: Evidence from a Field Experiment in Kenya, *American Economic Journal: Applied Economics*, Vol.5, pp.163-92.
- Goodstein, Ryan M., and Sherrie L.W. Rhine, (2019), "The Effects of Bank and Nonbank Provider Locations on Household Use of Financial Transaction Services," *Journal of Banking & Finance*, Vol.78, pp.91-107.
- Melzer, Brian, (2018), "Spillovers from Costly Credit," *Review of Financial Studies*, Vol.31, pp.3568-3594.
- Nguyen, Hoai-Luu Q., (2019), "Are Credit Markets Still Local? Evidence from Bank Branch Closings," *American Economic Journal: Applied Economics*, Vol.11, pp.1-32.
- Prina, Silvia, (2015), "Banking the Poor via Savings Accounts: Evidence from a Field Experiment," *Journal of Development Economics*, Vol.115, pp.16-31.
- Schaner, Simone, (2018), "The Persistent Power of Behavioral Change: Long-Run Impacts of Temporary Savings Subsidies for the Poor," *American Economic Journal: Applied Economics*, Vol.10, pp.67-100.
- Scott Carrell, Jonathan Zinman, (2014), "In Harm's Way? Payday Loan Access and Military Personnel Performance," *Review of Financial Studies*, Vol.27, pp.2805-2840.

Questionnaire on Household Financing Behaviors
Soal Selidik mengenai Gelagat Kewangan Isi Rumah

1. This survey is being conducted by VODUS MEDIA SDN BHD on behalf of the project manager of this project, Professor Mamoru Nagano, Seikei University, Tokyo, Japan, as a part of its international research survey on financial inclusion of household sectors. We ask your cooperation in this survey.
2. Respondent names or individual responses will never be made public. All of your responses will be statistically processed in computer and used only for the purpose of the survey, under strict confidence.
1. Soal selidik ini dijalankan oleh VODUS MEDIA SDN BHD bagi pihak pengurus projek ini, Profesor Mamoru Nagano, Seikei University, Tokyo, Jepun. Ia merupakan sebagai sebahagian daripada penyelidikan antarabangsa mengenai penyertaan kewangan sektor isi rumah. Kerjasama anda dalam soal selidik ini sangat dihargai.
2. Nama responden tidak akan diumumkan kepada umum. Semua dapatan survei anda akan diproses secara statistik di komputer dan hanya digunakan untuk tujuan tinjauan sahaja, dengan rahsia

- F1. Please fill in your age in the blank on the right. (N=7,410)
Sila isi umur anda.

平均值 43.7 歳 中央値 49.0 歳 標準偏差 11.3 歳

- F2. Please fill in your gender in the blank on the right. (N=7,410)
Isi jantina anda di tempat kosong di sebelah kanan.

Female Perempuan 42.1% 2. Male Lelaki 57.9%

- F3. Please select and enter the religion you believe in. (N=7,410)
Sila nyatakan agama Anda

1. Islam Islam 31.3% 2. Buddhism Buddha 3.2% 3. Hinduism Hindu 0.5% 4. Christianity Kristian 5.0% 5. Others Lain-lain agama / I have no religious beliefs Saya tidak mempunyai kepercayaan agama 60.0%

- F4. Please select and enter only one your ethnic group below. (N=7,410)
Sila nyatakan bangsa keturunan Anda

1. Malay Melayu 62.1% 2. Chinese Cina 18.3% 3. Indian India 0%
4. Indigenous Bumiputera Sabah/Sarawak 0% 5. Others Yang lain 19.6%

- F5. What is your occupation? Please choose and fill in one of the numbers in the right. (N=7,410)
Apakah sektor pekerjaan anda? Sila pilih dari bawah dan isikan nombornya.

- | | |
|--|--------------|
| 1. Agriculture, Forestry, and Fisheries Pertanian, Perhutanan, dan Perikanan | <u>4.2%</u> |
| 2. Construction Industry Industri Pembinaan | <u>34.8%</u> |
| 3. Manufacturing Industry Industri pembuatan | <u>4.4%</u> |
| 4. Wholesale/Retail Business Perniagaan Borong / Runcit | <u>1.8%</u> |
| 5. Restaurant/Hotel Business Perniagaan Restoran / Hotel | <u>13.7%</u> |
| 6. Medical Services Perkhidmatan Perubatan | <u>2.5%</u> |
| 7. Education/Public Services Pendidikan / Perkhidmatan Awam | <u>10.8%</u> |
| 8. Others Yang lain | <u>17.3%</u> |
| 9. No Job menganggur | <u>10.5%</u> |

- F6. Please choose your final academic background from the options below. (N=7,410)

Pilih pencapaian akademik terakhir anda dari pilihan di bawah.

- | | |
|--|--------------|
| 1. Elementary School / Junior High School Graduate
Sekolah Rendah / Lulusan sekolah menengah rendah | <u>8.0%</u> |
| 2. High School Graduate
Lulusan sekolah menengah | <u>36.4%</u> |
| 3. University Undergraduate
Ijazah sarjana muda | <u>42.2%</u> |
| 4. University Graduate School
Ijazah sarjana dan keatas | <u>10.3%</u> |
| 5. Others Yang lain | <u>3.1%</u> |

F7. Where do you live? Please choose and fill in one of the numbers in the right. (N=7,410)
Di manakah anda tinggal? Sila pilih dari bawah dan isikan nombornya

- | | |
|---|--------------|
| 1. Central Region Wilayah Tengah | <u>31.7%</u> |
| 2. East Coast Region Wilayah Pantai Timur | <u>17.5%</u> |
| 3. East Malaysia Malaysia Timur | <u>8.5%</u> |
| 4. Northern Region Wilayah Utara | <u>20.9%</u> |
| 5. Southern Region Wilayah Selatan | <u>21.4%</u> |

F8. Are you married? Please choose and fill in one of the numbers in the right. (N=7,410)
Adakah anda sudah berkahwin? Sila pilih dari bawah dan isikan nombornya.

- | | | | |
|-----------|--------------|-------------|--------------|
| 1. Yes Ya | <u>66.5%</u> | 2. No Tidak | <u>33.5%</u> |
|-----------|--------------|-------------|--------------|

F9. How many family members do you live together? (N=7,410)
Berapa ahli keluarga anda tinggal bersama?

平均值 3.7 人 中央值 4.0 人 標準偏差 1.6 人

F10. How much was your approximate annual income last year? (N=7,410)
Berapakah anggaran pendapatan anda bagi sepanjang tahun lalu?

平均值 20,030 MYR 中央值 20,000 MYR 標準偏差 27,109 MYR

F11. How many percentages do you save from that income? (N=7,410)
Berapa peratusan yang anda simpan dari pendapatan itu?

平均值 31.2 % 中央值 15.0 % 標準偏差 36.2 %

II. About your personal finance Mengenai kewangan peribadi anda

Q1. Please choose one "main-bank" which you use your bank accounts the most. (N=7,410)
Pilih satu "bank utama" yang paling banyak anda gunakan akaun bank anda.

<Local Conventional Bank: Bank Tempatan >

- | | | | | | | | |
|--------------------|--------------|----------------------------|--------------|-----------------------|-------------|-------------|--------------|
| 1. Maybank | <u>20.4%</u> | 2. CIMB Bank | <u>12.9%</u> | 3. Public Bank Berhad | <u>2.8%</u> | 4. RHB Bank | <u>29.6%</u> |
| 5. Hong Leong Bank | <u>1.7%</u> | 6. Other conventional bank | <u>8.1%</u> | | | | |

<Local Islamic Bank: Bank Islam Tempatan >

7. CIMB Islamic Bank Berhad 1.1% 8. RHB Islamic Bank 1.4% 9. Public Islamic Bank 1.0%
10. Bank Islam Malaysia 4.5% 11. Other Islamic bank 2.0%

<Others>

13. Other Financial Institution 4.7% 14. I don't have any bank account 7.4%

Q2. Please choose one "secondary-bank" which you use your bank accounts the second most. (N=7,410)
Pilih "bank sekunder" yang paling kerap anda gunakan akaun bank anda.

<Local Conventional Bank: Bank Tempatan >

1. Maybank 9.4% 2. CIMB Bank 8.7% 3. Public Bank Berhad 3.1% 4. RHB Bank 28.6%
5. Hong Leong Bank 1.9% 6. Other conventional bank 9.6%

<Local Islamic Bank: Bank Islam Tempatan >

7. CIMB Islamic Bank Berhad 1.3% 8. RHB Islamic Bank 1.3% 9. Public Islamic Bank 0.8%
10. Bank Islam Malaysia 4.2% 11. Bank Islam Malaysia 4.2% 12. Other Islamic bank 2.0%

<Others>

13. Other Financial Institution 5.0% 14. I only have one bank account 8.8%

Q3 How much was your approximate total financial assets as of today? (N=7,410)
Berapa anggaran semasa jumlah aset kewangan anda?

平均值 34,527.1 MYR 中央値 12,500.0 MYR 標準偏差 77,521.8 MYR

Q4 What percentage of your financial assets are invested in each of the following? (N=7,410)
Berapakah peratusan aset kewangan anda yang dilaburkan dalam setiap perkara berikut?

Cash and Deposit Wang tunai dan deposit	<u>平均值 57.4% 中央値 59.6%</u> <u>標準偏差 67.4%</u>
Equities plus Mutual Funds Saham dan Unit Amanah (ASN)	<u>平均值 29.6% 中央値 30.3%</u> <u>標準偏差 44.1%</u>
Others Lain-Lain pelaburan	No response is necessary
Total Jumlah keseluruhan	100 percent

Q5 How much is your residential mortgage loan outstanding as of today if you are a homeowner. (N=7,410)
Berapakah jumlah hutang gadai janji rumah anda yang belum dijelaskan hari ini jika anda adalah pemilik rumah.

平均值 86, 818 MYR 中央値 18,247 MYR 標準偏差 134,793 MYR 持ち家なし 35.2%

Q6 Please answer this question only if you chose any of 2-13 in Q5. Which of the following residential mortgage loan schemes did you choose when you concluded a mortgage loan contract with a bank? (N=7,410)

Sila jawab soalan ini hanya jika anda memilih mana-mana 2-13 dalam S5. Antara skim pinjaman gadai janji kediaman berikut, yang manakah anda pilih semasa anda membuat kontrak pinjaman gadai janji dengan bank?

1. Normal standard mortgage loan contract with a non-Islamic bank 6.9%
Kontrak pinjaman gadai janji standard biasa dengan bank bukan Islam

2. Murabaha home finance contract with an Islamic bank Kontrak pembiayaan rumah murabaha dengan bank Islam	<u>15.7%</u>
3. Musharakah home finance contract with an Islamic bank Kontrak pembiayaan rumah musharakah dengan bank Islam	<u>1.4%</u>
4. Mudarabah home finance contract with an Islamic bank Kontrak pembiayaan rumah mudarabah dengan bank Islam	<u>2.8%</u>
5. Ijarah home finance contract with an Islamic bank Kontrak pembiayaan rumah ijarah dengan bank Islam	<u>0.9%</u>
6. Other Islamic home finance contract with an Islamic bank Kontrak kewangan rumah Islam lain dengan bank Islam	<u>1.8%</u>
7. Others Lain-lain	<u>7.5%</u>

(In the case of internet questionnaire survey, this question may not be necessary.)

This is the end of the questionnaire. Thank you for taking your time and patience in completing this questionnaire. As a token of our appreciation, we are pleased to send you a summary of the survey upon your request. If you would like to receive the summary, please provide your information.

Ini adalah bahagian akhir soal selidik. Terima kasih kerana meluangkan masa dan kesabaran anda dalam memberikan respon kepada soal selidik ini. Sebagai tanda penghargaan, kami dengan senang hati akan menghantar ringkasan tinjauan atas permintaan anda. Sekiranya anda ingin menerima ringkasan ini, sila berikan maklumat anda.

Name Nama	
Email address Alamat emel	

(ながの・まもる)